

「教員の養成の目標及び計画」

京都教育大学は教員養成を主たる役割とする単科大学として、学芸についての深い研究と指導とをなし、教養高き人としての知識、情操、態度を養うとともに、教育専門職に必要な資質、能力を有する人材の養成を行うことを社会的使命とする。また時代・社会の動向を視野に入れつつ、教育研究活動を通じて教育に関する諸問題の解決に的確に貢献する。さらに、様々な特徴を持った6附属学校園を有する特色を活かし、学校教育と教員養成に関する実践的研究を推進することにより、教員養成の未来像を追究する。こうした大学としての理念を踏まえ、特に以下の事項について重点的に取り組む。

- 教育学部及び連合教職実践研究科の6年間を見通した教育を行い、教育に関する深い理解を培うとともに、現代的教育課題に対応できる資質能力を備えた実践的指導力を有する教員を養成する。
- 市民としての社会的責任を自覚し、教職に就く者にふさわしい、ひとときわ高い倫理観及び人権尊重の意識を有した人材を養成する。

- ◎教育学部は、高い倫理観と人権意識の基盤の上に、教養高き人としての知識、情操、態度を育成し、学校教育の分野で地域社会に貢献できる人材を養成することを目指す。
 - 高度な教育実践力を形成することにより、令和の時代を迎えてますます多くの課題をかかえている学校教育をはじめとする教育分野で地域社会に貢献できる人材を養成する。
 - 教職関連科目、実地教育、教職キャリア指導のそれぞれの体系化と相互の有機的関連を図り、学部段階に求められる実践的指導力を育成する。

- ◎連合教職実践研究科は、学士課程における教員養成教育と現職教員の教職経験の上に、教育の理論と教職実践を深く追究させることにより、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有する教員を養成することを目指す。
 - 高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員を養成する。
 - 社会の変化に対応し、多様な教育課題を解決できる教員を養成する。
 - 教育及び教科の理論と実践との往還を通じて、実践的指導力を高め続ける教員を養成する。
 - 現職教員の入学者については、より高度な実践力と応用力、地域における指導的教員・学校管理職としての指導力を養う。